

# 野菜作り食育活動

倉敷の支援団体「つばさ」

## GWに子どもらと作業

放課後などに孤立しがちな子どもの居場所づくりに取り組み一般社団法人「子どもソーシャルワークセンター つばさ」（倉敷市）は、有志から無償で借りた畑で野菜作りを始めた。支援している子どもらに育てて食べる体験をしてもらい、食育に役立てる。

つばさのメンバーは、川崎医療福祉大（同市）の卒業生と学生計8人。学校が終わった後、家庭の事情で一人で過ごすことが多い児童を受け入れる「倉敷トワイライトホーム」を同市で週3、4回運営している。

活動に賛同した不動産賃貸業佐藤高美さん（岡山市北区伊福町）から、倉敷市二日市で経営する貸農園の一部約80平方メートルの提供を受けた。3月上旬に学生ら6人と佐藤さんがジャガイモの種芋を植えた。ゴールデンウィーク中には子どもらも参加して、トマトやキュウリなどの夏野菜を植える



予定。農業体験は年3、4回実施し学生らが世話をする。収穫した野菜は同ホームでの食事に活用する。

子どもたちの食育に向け、畑にジャガイモを植える学生ら＝倉敷市二日市

で味わう。

つばさの代表理事・

紀奈那さん(23)は「農業経験が少ない学生と子どもが共に作業することで、人間関係を深めることにもつながる。メンバーは作業に使う農具の寄付を募っている。連絡は紀さん(080-5662-1495)。(山内悠記子)

「ば」と期待。佐藤さんは「次代を担う子どもの支援に本気で取り組む若者たちを応援していきたい」と話している。